

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092000100		
法人名	株式会社 伸宅		
事業所名	グループホーム 生き生き参番館		
所在地	福岡県柳川市三橋町蒲船津333-1 (電話) 0944-72-7333		
自己評価作成日	平成 26 年 12 月 28 日	評価結果確定日	平成 27 年 2 月 25 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

住み慣れた柳川で利用者様らしい生活を安心して送って頂ける事を理念に掲げて、職員一同細やかな質の高いケアを目指している。ご家族との連絡を密にとり信頼関係を築くと共に、重度化しても少しでも長く利用者様らしく生活して頂ける様に訪問看護との医療連携でリハビリも含めて生活の質が保たれるよう努めている。地域の一員として市の福祉委員さんへの講演をはじめ老人会や小学校でも行い、認知症や施設への理解を得る事で地域社会への貢献に努めている。また、市の民生員やボランティア団体・地区の社会福祉協議会の方々の施設視察や研修会を受け入れている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会	
所在地	福岡県春日市原町3-1-7	
訪問調査日	平成 27 年 1 月 30 日	

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

利便性の高い場所に立地している西洋風の建物で、採光にすぐれ明るく清潔で綺麗である。利用者の穏やかな表情から、管理者と職員が共により良いケアを目指していることがうかがえる。利用者の得意なことをやっていただくように働きかけ、役割が生きがい繋がるように関わっている。職員手づくりの品々が随所にみられ、家庭的な雰囲気醸しだしている。また、重度の利用者と家族が、今を大切にその人らしく暮らしていただけるよう、明るく前向きに取り組む姿に、今後の益々の発展と期待ができる事業所である。管理者は、地域の認知症ケアの向上に努めており、周辺地域住民の理解に繋がりがつつある。

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところに提示し、いつでも理解出来る様にし、職員全員で共有出来るようにしている。	事業所独自の理念の中に「介護を通して地域社会への貢献」を掲げ、管理者と職員は理念を共有し、利用者や家族が住み慣れた地域でその人らしく暮らしていただけるように、日々良いケアを目指し、取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として区費を納めている。また、地域の敬老会や行事にも参加し、伝統芸能の風流の訪問を受け交流を図っている。また、日常的に散歩の時に挨拶を交わしている。	自治会に加入し、地域の廃品回収活動や敬老会の行事に参加している。近隣高校（福祉科）の実習生、地区の社会福祉協議会の視察や研修を受け入れている。市の福祉委員の集まりや老人会、小学校で講演を行っている。また、日頃から散歩に出かけ地域の方とふれあうなど多世代との交流にも努めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、市の福祉委員さんへの講演を始め、老人会や小学校でも行っている。また、市の民生委員やボランティア団体・地区の社会福祉協議会の方々の施設視察や研修会を受け入れている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用状況・行事・研修報告を行うと共に事故報告等も行い、その内容について意見や提案を受けてサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回運営推進会議を定期的に開催し、事業所の活動・運営・行事などの状況を報告し話し合い、意見をもらっている。柳川東駅整備計画のため事業所の周辺は工事区域で利用者の安全確保について話し合いを行ったが、行政の指導もあり工事期間中は玄関を施錠している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員になって頂いている。欠席の場合は議事録を持参し、近況報告を行っている。また、生保での利用希望者については、担当者の他にも保護課の担当者とも連絡・相談しながら検討している。	介護保険改正や書類申請時、また利用者の相談事例などその都度相談をし対応してもらっている。認知症サポーター養成講座の講演や事業所の視察・研修の受け入れなど、共に地域を支え、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束について勉強会を開催し、理解を深めるように努めている。玄関の施錠に関しては、一度離設が発生し、施設周囲の工事区域内に侵入された事もあり、行政からも工事期間中は安全を図る為に施錠を、との指導を受け、玄関を施錠している。	身体拘束に関する勉強会を7月に開催し、理解の徹底をはかっている。事業所周辺工事のため、行政の指導で工事期間中は玄関の施錠を行っているが、閉塞感や不安感への配慮や工夫に努めており、家族等への説明を行って同意も得ている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修会を行い、毎朝の申し送り時やケア会議等で話し合い、お互いに注意する様に確認し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修会の資料を用いて伝達研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、玄関に成年後見人制度のパンフレットを準備し、配布を行い情報提供を行っている。	職員は権利擁護に関する制度について、11月に開催された研修会で共有認識を図っている。利用者が必要な状態になられたら、玄関に設置してあるパンフレットなどを利用し支援できるように体制を整えている。また、契約時に利用者・家族に説明をしているが、状況に応じてその都度活用できるように取り組んでいる。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や料金改定の内容について疑問点を確認しながら、納得していただけるまで説明し、同意が得られる様に努めて、同意が得られたら署名・捺印をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域の委員さんから意見を伺い施設運営を図っている。又、御家族には、面会時に状態報告を行うと共に意見や要望を伺い、その都度職員に伝え、より良い運営を目指している。	管理者や職員は、利用者や家族が気軽に意見が言えるように、普段の関わりや声かけを心がけ、意見をもらえるよう努めている。「花を育てたい」と希望された利用者と一緒に花を選び植えたら、水遣りを自分の役割として捉えられ、力を発揮されるようになった。家族に対しては、苦情に関する第三者相談窓口について重要事項説明書に明記し説明を行っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員の意見を聞き入れている。自己評価は全職員で取り組んでいる。又、朝の申し送りやケア会議等で問題提起を行い、意見や提案を出しやすい環境を作り話し合いながら運営に取り入れている。	管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとり、意見が言いやすい心がけ、職員の意見を聞くようにしている。行事や外出の計画、不定期薬の投与について職員の気づきや意見を運営に取り入れている。また管理者は、職員の異動や離職について、利用者・家族や職員との馴染みの関係を大切に、継続できるように取り組み努めている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話しやすい関係作りの為に、思いを聞く様にして精神的安定を図っている。また、年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。希望休や有給を利用し、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、福祉や社会貢献に対する思いを評価する様にしている。また、ボランティア活動・PTA活動・研修会の参加や講演会の開催や、音楽活動等も推奨している。	管理者は内部研修会や勉強会を開催し、職員の育成や資格修得に向けた支援を行っている。職員の年齢層は20代～60代と幅ひろく、既婚者や出産育児中の職員や誰でも安心して働けるように職場の環境や条件の整備に努めている。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本ととらえて事業所の理念として周知している。また、人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送りや会議の中でも職員全員が自らの事として捉える機会を設けている。	11月に研修会を開催している。研修内容についての報告・伝達研修を行い、全職員で意識化を図っている。利用者の基本的人権は尊重されている環境である。事業所の基本理念として掲げ、人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会ある毎に外部研修へ参加し、内部への伝達研修を行う事で個々の力量の向上に努めている。また、法人内外共に積極的に研修の機会を設けて参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の中でも同業者の研修会へ参加し、交流の機会を持ち勉強会を開いている。また他施設の訪問や会合等へ参加することで意見交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心確保のための関係づくりに努めている	入居前に、施設内の見学や面談を行い、本人様の困り事や不安・要望等に耳を傾け、その意見を反映することで、本人の安心確保につながる信頼関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の思いや不安な事を聞き、情報収集を行いニーズの把握に努め、家族と共に本人を支える関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際、詳しく話を聞き、必要とする支援、本人・家族が希望している支援の見極めを行い、他サービスの説明を交えながら、その時必要とする支援の導入を見極めるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が利用者様に介護をするという一方的な関係性ではなく、同じ空間で食事やレクリエーション、洗濯物たたみを行うことで一緒に生活しているという意識を持ち、必要な時に助け合える関係を築いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会の際には、本人様の状態や必要な物品等をお伝えし、共に本人を支えていく関係を築いている。御家族にも敬老会等の行事に参加して頂いたり、写真を見てもらう事で喜んでいただいている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会はいつでも来て頂けるようにしている。本人様の希望があれば、身体的に外出が難しくなっても以前と変わらず外出が出来るように支援している。	馴染みの美容室や会いたい人に会いに出かけたり、事業所主催の敬老会にお招きの声かけをしている。また、利用者の関係者に訪問していただけるように働きかけ、これまで繋がっていた大切な馴染みの人との関係が途切れることがないように支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の人間関係を把握し、状態に応じて職員が間に入ったり、レクリエーション等を通して、利用者様の関わり合いが持てるように支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院の為に契約終了された利用者様を病院へ面会に伺ったり、御家族から退院後の相談を受けたりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症の方は、言葉で自分の感情をうまく伝えられない状態にあることが多く、貴重な情報を家族の方に伺い、少しでも利用者様の希望を把握しようと努めている。	その人らしく暮らし続ける支援に向けて、日々の関わりの中で、思いや意向の把握に努めている。言葉や表情、興奮、不穏な場合は寂しい気持ちが多く、しっかり手を握って接する等コミュニケーションを図るよう努めている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々のフェイスシートにより基本情報を把握し、会話の中からどんな暮らし方、生活環境であったかを時間をかけ探り、どんな言葉・レクリエーションに興味を持って頂いたかの把握に努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活・運動・レクリエーション・食事等から、何が好きで何に興味を持って、どう一日を過ごしてあるか、どこまでの介助が必要で、必要でないか定例会議においても個々の変化・現状を話し合っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族から思いや意見を聞き取り、ケア会議の中で気づきや改善案など情報を交換し、介護計画に活かしている。又、状態変化や要望に応じてその都度見直しをしている。	本人・家族の要望を踏まえて、担当者を中心に医師の気付きや意見を反映しながら、3ヶ月に1回定期的に行っている。また、利用者の状態変化や状況に応じて随時見直しもを行い、計画を見直した際は、家族へ報告し了承をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人の日々の生活状況を具体的に記録し、情報を共有する事で気づきを多くし、ケアの改善等に活かし、介護計画に反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等によって生じるニーズに対して検討し、その都度柔軟に対応出来るよう心がけている。又、訪看との医療連携を取っており、医療相談や夜間緊急時の対応、必要とする方には訪看によるリハビリを行ったりと、他職種による支援の導入に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーでの買い物や近くの理髪店を利用したり、町内会の祭りや餅つきに参加し地域とのつながりを保つと共に、利用者様の心身の力が発揮できるよう地域資源の活用にも努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望に応じて、臨機応変に対応している。突発的な急変や身体的損傷については、家族と主治医にコンタクトを取り、状況の変化にすぐに対応している。	本人・家族希望のかかりつけ医による受診をしており、往診希望の利用者は協力医や主治医と契約時に話し合っている。事業所が付き添い、病院で家族と落ち合う場合もあるが、通院介助の方法、情報の伝達については家族と話し合い合意している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との関係を密にし、指示やアドバイスを受け、利用者様に適切な介護や看護を提供出来るようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に伴うストレスを最小限にし、短期間に治療を行い、スムーズに退院されるよう話し合いながら支援に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より事業所の方針の説明を行い、理解・同意を得ている。状態変化時は家族へ報告を行い、重症化や終末期を迎えた場合も、家族・医療関係者・事業所とで方針の確認、決定を行い、全職員情報の共有を行っている。事業所で出来る限りの支援を行い、本人様が安楽に過ごせるような取り組みを心掛けている。	利用開始時に「重度化した場合の対応に係る指針」と明文化した事業所の方針を家族などに説明し、同意を得ている。また、利用者や家族などの状況変化に応じて、その都度話し合いを行い、利用者・家族、医療関係者、職員で看取りへの対応について方針を共有して、支援に取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、訪問看護師の指示を受け、全ての職員が実践できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を計画・実施し、11月には運営推進委員さん参加のもと、消防署の指導を受けながら、夜間想定での避難訓練を行い、地域への協力の依頼を行った。	マニュアルを作成している。避難訓練を年2回実施、うち1回は消防署の協力を得て夜間を想定し行っている。地域の協力体制については運営推進会議で協力を呼びかけ、体制を築いている。非常用備品・飲食料は事業所内2階の事務室倉庫に備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様と家族のように親しい関係の中でも礼節を忘れず、利用者様のプライドや羞恥心に配慮しながら、利用者本位の介護の実践に取り組んでいる。	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないよう、声かけや対応をしている。内部研修やミーティング時には、利用者に対する言葉遣いや対応について、職員の意識向上を図っている。個人情報について職員に守秘義務の徹底を図っている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中で本人様の希望や訴えを探り、自己表現が困難な方はこちらから働きかけ、意思を伝えやすい雰囲気言葉かけをし、自己で決定出来る様コミュニケーションに心掛けている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の意思を確認し、一人一人のペースやその日の状態に沿って、自由に過ごしていただけるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の御家族と相談して、希望に合わせて身だしなみをして頂けるよう支援している。定期的に理容店の訪問があり、本人様へ散髪するか尋ねながら散髪を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の片付けが出来る方には、下膳やお盆拭き等を手伝ってもらい、利用者様の残存能力を引き出す取り組みをしている。又、それぞれ入所者様に嗜好品を聞き、朝食に卵を使った料理を提供したりと希望に添うよう支援行っている。	調理専門員3人がローテーションを組み調理している。茶碗洗いを自分の仕事として役割を持つなど、利用者の力を活かしている。各々の嗜好も把握して献立に取り入れ、季節毎の行事食や皆で一緒に作るおやつ、ホットケーキやたこ焼きなどは楽しみのひとつになっている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日、食事量・水分量をチェックしている。食事量が少ない方には、エンシュアリキッドを摂取して頂いたり、食欲のない方には本人様の好まれるきな粉やふりかけをかけて提供する事で摂取の向上に努めている。又、水分量が少ない方には、好みの飲み物やゼリーを提供する等し、水分確保にも努めている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、一日一回義歯ポリドント洗浄を実施している。ご自分で困難な方はそばに付き添い、状態に応じて介助を行い、うがいが困難な方は口腔用スポンジ等を使用し、口腔内の清潔保持に努めている。又、必要に応じて歯科往診をして頂いている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて、一人一人の排泄パターンを把握し、トイレの声掛け・誘導を行っている。自力での排泄が困難な方には腹部マッサージを行う等し、出来るだけトイレでの排泄が出来る様に支援している。	排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らって誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。紙パンツ、パット類も本人に合わせて検討している。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、便秘傾向の方には乳製品を提供したり、状態に応じ腹部マッサージを行っている。又、散歩や体操等のレクリエーションを実施し、自然排便を促している。必要に応じて、主治医や看護師との連携を図り、スムーズな排便コントロールに努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	利用者様の希望やその日の状態に合わせて入浴の支援に取り組んでいる。入浴を拒む利用者様には、時間を変更したり、職員が代わってタイミングをみて声掛けしている。無理強いをせずに利用者様の自己決定を優先した支援を行っている。	入浴は午前・午後とも希望があれば、いつでも入浴可能にしており、毎日入浴する利用者もいる。入浴拒否の場合でも、タイミング、言葉かけや対応の工夫で週3回の入浴を行うなど、柔軟に対応し入浴を楽しめるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間は、利用者様一人一人に合わせた時間で対応している。夜間不眠の方には、日々の暮らし方を検討し安眠に繋げている。又、体力面も考慮しながら、その方に合わせ休息出来るよう臥床時間も作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の作用・副作用を理解し与薬を行っている。又、飲み忘れや誤薬がないようチェック表を用いて確認を行っている。状態変化あれば記録に残し、主治医や訪問看護師へ報告し、指示に基づいた与薬を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の関わりの中で個々の力を見つけ、楽しく過ごせるように支援している。気候の良い時は屋外に出掛けたり、おやつ作りを一緒にしたり気分転換を図っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節の花を見にドライブに出掛けたり、近隣を散歩したり、買い物をしたりと地域や自然との触れ合いで、五感を刺激する機会として支援している。又、希望に添って近くの理髪店へお連れし、同行している。	陽気や利用者の体調・希望に応じて、散歩、買い物、ドライブを支援している。家族の協力を得ながら、四季の花見、さげもん祭り、清水山、道の駅などのドライブや車椅子の方でも本人に合わせた移動に配慮しながら支援をしている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る方は本人様で所持されており、希望時には一緒に付き添い買い物して頂いている。又、金銭管理の難しい方は事務所で預かり、本人様が買いたい物を買えるように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の利用者様は、個人的に携帯電話を所持されており、自由に家族等に連絡をとってもらっている。又、希望があれば、電話や手紙のやりとりが出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間はソファを用意し、テレビ等を置き、家庭的な雰囲気空間となるよう努めている。又、季節を感じて頂けるよう季節の花を飾ったり、壁には利用者様の日頃の写真を飾り、居心地の良い空間になるよう工夫している。	共用空間は開放的なリビングで、ソファが程良く配置されており、テレビや会話を楽しむ方、寝そべっている方、一人で過ごしたい方等それぞれがくつろげるようスペースに配慮がある。テーブルには季節の花が飾られ生活感があり、快適に過ごせるような工夫がある。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中でも数カ所に別れ、好きな所で過ごして頂ける様に空間作りに取り組んでいる。利用者様同士が話しやすいように、ソファや椅子の配置を考え、居心地の良い場所を感じて頂けるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の使い慣れた家具や仏壇・生活用品や写真を持ち込んでもらい、利用者様が安心して穏やかに暮らせるよう支援している。	居室の表札には可愛い花が添えられており、和みを感じる。室内は家族写真に囲まれ、馴染みにしていた小物やさげもん、家具・鏡台、テレビや冷蔵庫も備え、自宅で生活していた時と同じような環境で過ごしている方もいる。それぞれに居心地良く過ごせるよう工夫をしている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物全体がバリアフリー構造で、手すり・表示などを工夫し、利用者様が安全で快適な生活を送れるよう支援している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
				③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は目につくところに提示し、いつでも理解出来る様にし、職員全員で共有出来るようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として区費を納めている。また、地域の敬老会や行事にも参加し、伝統芸能の風流の訪問を受け交流を図っている。また、日常的に散歩の時に挨拶を交わしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトとして、市の福祉委員さんへの講演を始め、老人会や小学校でも行っている。また、市の民生員やボランティア団体・地区の社会福祉協議会の方々の施設視察や研修会を受け入れている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用状況・行事・研修報告を行うと共に事故報告等も行い、その内容について意見や提案を受けてサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の委員になって頂いている。欠席の場合は議事録を持参し、近況報告を行っている。また、生保での利用希望者については、担当者以外にも保護課の担当者とも連絡・相談しながら検討している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員会議で身体拘束について勉強会を開催し、理解を深めるように努めている。玄関の施錠に関しては、一度離設が発生し、施設周囲の工事区域内に侵入された事もあり、行政からも工事期間中は安全を図る為に施錠を、との指導を受け、玄関施錠している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について研修会を行い、毎朝の申し送り時やケア会議等で話し合い、お互いに注意する様に確認し合っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する外部研修会の資料を用いて伝達研修を行い、学ぶ機会を設けている。また、玄関に成年後見人制度のパンフレットを準備し、配布を行い情報提供を行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や料金改定の内容について疑問点を確認しながら、納得していただけるまで説明し、同意が得られる様に努めて、同意が得られたら署名・捺印をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、地域の委員さんから意見を伺い施設運営を図っている。又、御家族には、面会時に状態報告を行うと共に意見や要望を伺い、その都度職員に伝え、より良い運営を目指している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段から職員の意見を聞き入れている。自己評価は全職員で取り組んでいる。又、朝の申し送りやケア会議等で問題提起を行い、意見や提案を出しやすい環境を作り話し合いながら運営に取り入れている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との話しやすい関係作りの為に、思いを聞く様にして精神的安定を図っている。また、年に2回自己評価を行い、目標を持つ事でケアの向上に繋がるようにしている。希望休や有給を利用し、働きやすい職場の環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用時、性別・年齢・宗教など個人的な事は重視せず、福祉や社会貢献に対する思いを評価する様にしている。また、ボランティア活動・PTA活動・研修会の参加や講演会の開催や、音楽活動等も推奨している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権尊重は介護における基本ととらえて事業所の理念として周知している。また、人権尊重に対する研修会を開いたり、日々の申し送りや会議の中でも職員全員が自らの事として捉える機会を設けている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	機会ある毎に外部研修へ参加し、内部への伝達研修を行う事で個々の力量の向上に努めている。また、法人内外共に積極的に研修の機会を設けて参加している。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の中でも同業者の研修会へ参加し、交流の機会を持ち勉強会を開いている。また他施設の訪問や会合等へ参加することで意見交換を行っている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、施設内の見学や面談を行い、本人様の困り事や不安・要望等に耳を傾け、その意見を反映することで、本人の安心確保につながる信頼関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、家族の思いや不安な事を聞き、情報収集を行いニーズの把握に努め、家族と共に本人を支える関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の際、詳しく話を聞き、必要とする支援、本人・家族が希望している支援の見極めを行い、他サービスの説明を交えながら、その時必要とする支援の導入を見極めるようにしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の意思を尊重し、不十分である所を支援するよう努めている。利用者様と一緒に食事やレクリエーションをしたり、洗濯物を干したり散歩に出掛けたりと、他でもふれあいをもち、その人らしい暮らし作りに努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様と家族の関係が変わりなく続くよう、入居中の現状を定期的に報告するようにしている。本人と家族が安心して過ごせるよう個人個人にそった支援をしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人がみえられた際は、ゆっくりして頂けるよう配慮し、また来て頂けるよう声掛けしている。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格や相性など把握し、席の配置など考慮している。皆がそれぞれ楽しく過ごす時間や気の合う者同士で過ごせる時間を作っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期の入院の為に契約終了された利用者様を病院へ面会に伺ったり、御家族から退院後の相談を受けたりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の観察やコミュニケーションの中で、本人の希望や意向の把握に努めている。確認困難な方は、家族から本人の過去の様子や生活状況を伺い、少しでもその人らしく生活を送れるよう職員間で検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報や入居されてから本人やその家族からコミュニケーションを図っていく中で得た情報に関して、日々の申し送りや職員会議で全職員が把握できるように努めている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察の中で気付いた点を職員間で情報共有し、より良い支援が出来るよう努めている。又、心身共に安定した生活を送れるよう医療や訪問看護と連携を図っている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様や家族から思いや意見を聞き取り、ケア会議の中で気づきや改善案など情報を交換し、介護計画に活かしている。又、状態変化や要望に応じてその都度見直しをしている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人の日々の生活状況を具体的に記録し、情報を共有する事で気づきを多くし、ケアの改善等に活かし、介護計画に反映している。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況等によって生じるニーズに対して検討し、その都度柔軟に対応出来るよう心がけている。又、訪看との医療連携を取っており、医療相談や夜間緊急時の対応、必要とする方には訪看によるリハビリを行ったりと、他職種による支援の導入に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーでの買い物や近くの理髪店を利用したり、町内会の祭りや餅つきに参加し地域とのつながりを保つと共に、利用者様の心身の力が発揮できるよう地域資源の活用に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所との関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の要望に応じて、臨機応変に対応している。突発的な急変や身体的損傷については、家族と主治医にコンタクトを取り、状況の変化にすぐに対応している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師との関係を密にし、指示やアドバイスを受け、利用者様に適切な介護や看護を提供出来るようにしている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院に伴うストレスを最小限にし、短期間に治療を行い、スムーズに退院されるよう話し合いながら支援に努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より事業所の方針の説明を行い、理解・同意を得ている。状態変化時は家族へ報告を行い、重症化や終末期を迎えた場合も、家族・医療関係者・事業所とで方針の確認、決定を行い、全職員情報の共有を行っている。事業所で出来る限りの支援を行い、本人様が安楽に過ごせるような取り組みを心掛けている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に備え、訪問看護師の指示を受け、全ての職員が実践できるようにしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を計画・実施し、11月には運営推進委員さん参加のもと、消防署の指導を受けながら、夜間想定での避難訓練を行い、地域への協力の依頼を行った。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけない言葉遣いや接遇等の精神面での配慮、排泄や失禁等の対応・羞恥心について配慮し支援している。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様がしたい事や思っている事を聞きとるようコミュニケーションを図っている。職員の考え等を押しつけないよう常に利用者様に耳を傾け自己決定して頂くようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日どのように過ごしたいかを本人に決めて頂くようにしている。アセスメントや日常会話・動作により個人をよく知り、本人様のペースで過ごし、自宅と違って頂けるよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に理容店より来ていただいている。本人や家族と相談しながら、希望される方には散髪して頂き、その人らしい身だしなみが出るようにしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の身体に合わせて、調理・盛りつけ・配膳・後片付け等を一緒に行っている。食事の際は、職員も一緒に食べる事で会話をしながら楽しく食事が出来るよう心掛けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じて、食べる量・栄養バランスを考えている。水分量が少ない方は時間をおいたり、タイミングを見て飲んで頂くよう支援している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い、口腔ケアを施行し、口の中を清潔に保っている。又、口腔ケアが出来ない人は、ブラッシング・口腔スポンジ・ガーゼにて行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握して、利用者様の表情や仕草から察知し、声掛けによりトイレ誘導を行い、出来るだけ失敗のないよう、一人一人の力に応じた排泄の自立支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然排便が出来るよう食事の工夫をしたり、乳製品等で便秘予防に対応している。又、毎日の健康体操や腹部マッサージを行い、排便を促している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、利用者様の希望を聞きながら、湯温や一番風呂・長湯等に対応し、楽しく入ってもらえる様に工夫している。拒否される方には時間をずらして職員が交代して再度声掛けをし、無理強いせず利用者様の自己決定を優先している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の睡眠リズムに合わせて食事をずらしたり、話し相手になり安心して眠れるよう支援している。又、昼間も休息がとれるようベッドやソファ、その方に応じ対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の作用・副作用を理解し与薬を行っている。又、飲み忘れや誤薬がないようチェック表を用いて確認を行っている。状態変化あれば記録に残し、主治医や訪問看護師へ報告し、指示に基づいた与薬を行っている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の性格や一人一人の力を活かせる役割を持っていただくようにしている。嗜好品等は、本人の希望に添えられるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には、散歩に出掛けたり、買い物や季節の花見学に出掛け、利用者様の気分転換と季節を五感で感じ取り、日常生活の楽しみと張り合いにつながる外出支援を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者様は現金を所持しており、お店へ買い物に行く時は声掛けを行い、嗜好品を購入してもらっている。又、おこづかい帳等に記入してもらい、家族と共に金銭管理出来る様にしている。金銭管理が難しい方は家族と相談し、事務所で金銭を預かり、本人の要望時にはすぐ使えるようにしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人的に携帯電話を所有されている利用者様は家族や友人等と自由に連絡をとってもらっている。要望があれば、電話や手紙のやり取りが出来る様に支援している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のフロアは天窗からの自然光を取り入れた明るい空間となっている。又、季節折々の草花を食卓に飾り、四季を感じてもらえるようにしている。生活パターンに応じたBGMを流したり、冷暖房や加湿器を利用し、快適な空間となるよう努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の関係性を踏まえた上で、それぞれの希望に沿うよう、より良い共用空間作りに努めている。中央や廊下にソファを設け、それぞれの場所でくつろいで頂いている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・家族と相談しながら、使い慣れた家具や思い出の品、好きな物等を持ち込んで頂き、居心地の良い空間作りに努めている。又、写真等、思い出の品を飾り、家庭的な個人の空間となるよう工夫している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全館バリアフリー設計で、廊下やトイレ・浴室等には手すりを設置している。居室には名札を下げ、トイレにも表示をするなどして出来るだけ混乱なく生活出来るよう工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある
				② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている
				② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない